



APG-27議長に 就任して

KDDI株式会社
かわい のぶゆき
河合 宣行

〈プロフィール〉

専門領域：無線通信、衛星通信、運用保守

1985年 北海道大学工学部 電子工学科卒業

1985年 国際電信電話（現KDDI）入社

1993年 インマルサット本部（ロンドン）出向（4年間）

2004年 ITU-R SG4参加開始

2012年 ITU-R SG4副議長

2016年 ITU-R WP4C議長（現職）

2019年 WRC-19 第5委員会（COM 5）議長

2024年 APG-27議長（現職）

—— APG-27議長へのご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

河合 APG-27は、APT地域のWRC-27（世界無線通信会議）に向けての準備会合です。近年のWRCでは、世界6地域の地域会合（APGもその1つ）の見解や提案が、最終決定に大きな影響を与える傾向が強くなっていますので、とても重責を感じています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、APT、ITU（SG）との関わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

河合 ITU-RのSG4会合（衛星通信）で20年、APGにおいても衛星通信関連で10年ほど活動を続けてきました。このほか、国内での情報通信審議会の関連委員会、国際的な通信業界団体（GSMA）での活動にも携わってきました。

—— ご担当のAPG-27の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

河合 WRC-27では、主管庁からの提案等に基づく議題（議題1.1～1.19）のうち、15議題を占める宇宙・衛星関連の比重が高くなっています。また、議題1.13（衛星とスマートフォンの直接通信）をはじめとした衛星とモバイルの融合や共存に関する議題も特徴的です。ただ、WRCにおいては、全体のバランスの中で重要な決定がなされることも多いので、特定の議題に偏らず、議題横断的な俯瞰を心掛けていきたいと思っています。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

河合 地域を代表する立場に就かせていただいたので、APT地域にとって望ましいアウトプットが得られるよう、微力ながら最善を尽くす所存です。域内の様々なステークホルダーの方々の意見をよく聴き、調和を図りながら進めていきたいと思っています。また、ITU-RのWP4C議長を併任しています。APG-27議長とは独立した役職ですが、APT地域での活動の中でも、衛星通信に関する知見を生かせればと考えています。

—— 議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

河合 APT地域は、地理・文化・通信インフラの状況等において多様性をもった国々の集まりです。意見集約が難しい状況も想定され、他地域との対話・調整も図りながら結果を求めていくことは容易ではありませんが、リーダーシップを発揮しつつ、副議長、WP議長、APT事務局を交えたマネジメントチームの力を結集して、難局に立ち向かっていきたいと思っています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

河合 無線通信分野の技術の発展や利用の高度化とともに、周波数や衛星軌道といった共通資源へのニーズはますます高まっています。これらの資源の効率的で公平な利用というITU-Rのミッションを果たしつつ、ニーズに応えるべく、各国の尽力により、建設的な議論を重ねていけるような土壌が醸成されていくことを期待しています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

河合 若いころは、テニスなどのスポーツで身体を動かすことも好きだったのですが、そうした機会も減っています。いただいた役割を果たすためには、まずは健康・体力が基本なので、最近、時々、スポーツジムに通っています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

河合 これまでにお話したように、APG-27議長の役割は、私にとっては、とても重いもので、日本をはじめAPT地域の皆様のご理解・協力なしでは、成果に達することはできません。これまで、総務省や国内関係者の皆様には、ご指導・ご協力をいただきましたが、引き続きご支援をお願いします。